

<コラム 2 - 1> 厳しい状況が続く東北の雇用情勢

2003年1 - 3月期の東北の失業率は6.6%となり、前年同期差で0.3%ポイント上昇し、記録の取れる83年以降で最悪となった。その後、4 - 6月期は5.7%となっている(第2 - 2 - 1図)¹⁸。また、新規求人数の動きをみると、季節調整済み前期比で、2003年1 - 3月期に減少に転じ、4 - 6月期も2期連続での減少となった。新規求人の減少を受け、有効求人倍率の改善も頭打ちになっている(第2 - 2 - 2図)。

2003年1 - 3月期の失業率を年齢別にみると、15~24歳、55~64歳の年齢層などで前年と比較して悪化している。特に15~24歳の年齢層は、水準も14.0%と高い状況にある(第2 - 2 - 3図)。

若年者の雇用情勢について、2003年3月に高校を卒業した者の就職率をみると、一部の県では改善がみられたものの、7県中5県では昨年に比べて悪化した(第2 - 2 - 4図)。また、改善がみられた宮城県についても、域内の他県と比較して、水準は低いものにとどまっている。このように、若年者を中心に、東北の雇用情勢は厳しい状況にある。

<コラム 2 - 2> 年齢別・性別にみる九州の雇用情勢

九州の雇用情勢は、厳しい状況が続いている。2003年4 - 6月期の九州(沖縄を含む。以下同様)の完全失業率は、全国を1.1ポイント上回る6.6%となり、記録の取れる83年以降、過去最悪となった。特に男性の失業率は7.1%に達している(第2 - 2 - 5図)¹⁹。

九州における2001年以降の男女別の雇用者数の推移をみると、女性は前年比で増加を維持しているのに対し、男性は2002年1 - 3月期以降、前年比で減少を続けている。また同年4 - 6月期の男性雇用者数は、全国に比べて減少率が大きい(第2 - 2 - 6図)。

2003年4 - 6月期の雇用者数の前年同期差を年齢別にみてみると、女性は45歳以上の区分で増加しているのに対し、男性は、15~24歳と45~54歳の区分で特に減少している(第2 - 2 - 7図)。

労働力人口の動きをみると、男性は2003年に入ってから増加に転じており、同年4 - 6月期においては、女性とほぼ同じ増加率となっている(第2 - 2 - 8図)。このように、労働力人口の増加に対し、男性雇用者の減少していること(特に15~24歳と45~54歳の区分)が、九州の失業率悪化の背景にある特徴の一つと考えられる。

最近の九州経済の状況を見ると、鉱工業生産は緩やかに増加し、有効求人数が伸びているなど持ち直しの動きが続いているが、それが今のところ雇用にはつなげていない。

¹⁸ 第2 - 2 - 1図、第2 - 2 - 3図は、総務省「労働力調査」により作成。データは四半期値であり、未季調。ここでの東北は青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島の6県。第2 - 2 - 2図は、厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。ここでの東北は青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟の7県。第2 - 2 - 4図は、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟の各労働局資料により作成。調査時点は各年とも4月末時点。

¹⁹ 総務省「労働力調査」により作成(以下同様)。なお労働力調査は標本調査であり、九州のみの結果については標本規模も小さいことから、全国に比べて誤差が大きくなっていることに注意。